

<特別養成枠3年生の病院・診療所見学 取材ルポ>

◎鳥取県立中央病院

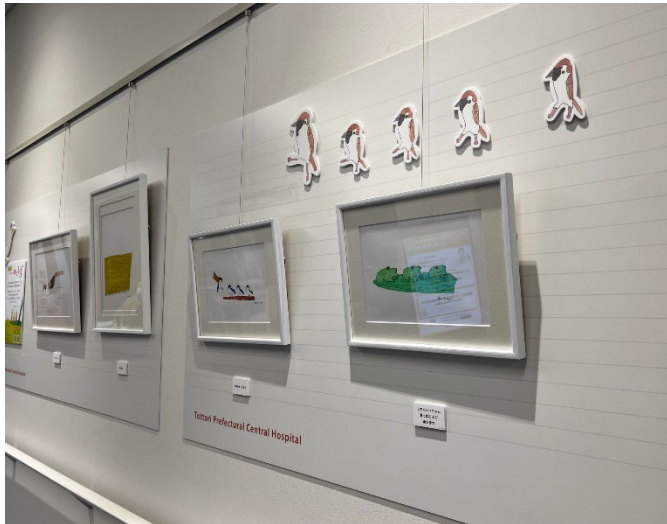
山根映斗さんは、東部地域の中核病院である鳥取県立中央病院を訪ねていました。午前中は、大坪直人研修医(特別養成枠卒、1年目)について院内を案内してもらい、研修中の小児科でNICU(新生児室)での診療などを見学されたそうです。お昼は研修医室で他の臨床研修医のお話もたくさん聞いたようです。

午後は、小児科の救急外来で診療見学。宇山祥先生(特別養成枠卒、8年目)のテキパキとした動きを、緊張感をもって見学していました。忙しい時間帯の合間に、どんな検査をしているのか説明もして下さりありがたいです。大坪研修医の動きも機敏ですね。

先輩臨床研修医の一日を見て、近い将来のイメージが具体化されたようです。また、小児科医のキャリアについても複数人の先生からお話を聴き参考になったとのことでした。今度は、地域の自治体病院も見学してみたいとのことでした。宇山先生、大坪先生、ご対応ありがとうございました。



(県立中央病院の外観。立派な建物で存在感がありますね。)



(院内の壁には、アートが飾られていました。ホスピタルアートの広がりを感ずります。)



(緊張感漂う救急外来。先生方の邪魔にならないように、少し離れて見学します。)



(宇山先生が検査の説明をして下さいました。)



(看護師さんにも積極的に質問します。)



(一日案内やお話をしてくれた大坪先輩、ありがとうございました！)

学生時代から、より多くの先輩医師の働く姿や医療機関に触れておくことは、自身のキャリアビジョンを具体化し、学生生活の中での行動目標設定にも影響する重要な経験です。また、先輩医師との交流は、将来医師となり勤務する期間に助け合えるサポート体制を構築することにつながり、学生・医師個人にとっても地域医療全体にとっても有用なことです。

鳥取県でも県内の医療機関見学研修企画(サマーセミナー、スプリングセミナー)を実施しています。今後も、学生さんたちにはこのような機会を積極的に活用し、できるだけたくさんの現場体験を重ねてほしいと思います。当センターでも引き続きサポートをしていきます。医療機関のみならず、医学生たちが身近に地域医療を感じる手助けをしていただきますよう、引き続きご協力よろしくお願いいたします。(紙本)